

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4570200669		
法人名	社会福祉法人豊の里		
事業所名	グループホーム2ユニットしらゆり		
所在地	宮崎県都城市下長飯町1640番地 (電話) 0986-39-3993		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年7月17日	評価確定日	平成21年8月28日

【情報提供票より】 (平成21年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤10人, 非常勤4人, 常勤換算6.0人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		950 円

(4) 利用者の概要(平成21年6月20日現在)

利用者人数	18名	男性 0名	女性 18名
要介護1	3	要介護2	4
要介護3	5	要介護4	6
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 85.5歳	最低 75歳	最高 99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊栄クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは都城市の南部に位置し、法人の福祉・医療・保健サービスとのネットワークを持っている。法人内管理の無農薬野菜を食材に管理栄養士の献立による食事提供等を行っている。悪天候以外は必ず実施される庭園の散歩等の外出支援も行われている。一方地域との連携も積極的に行い利用者の生活歴を活かした裁縫で雑巾を作り、地域の保育園や小学校に定期的に寄贈している。また、自治会への加入により更に地域とともに、支え合う信頼関係が出来ているなど、地域に根付いたホーム作りとなっている。そこに住む利用者は、自然環境にも恵まれ生き生きとした生活を送っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回課題となった「鍵をかけないケアの実践」の項目について、全職員で取り組み検討を行ってはいるが、事業所の効率性や安全性が優先され「鍵をかけないケア」には至っていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	前回の外部評価の課題となった項目については、職員が積極的に改善のための検討や取り組みを行ってきたが、一部の項目は改善まで至らないケースも見られた。しかし、全職員が外部評価の意義を理解し、自己評価の作成にも積極的なかわりを持って取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 「地域との交流、ふれあい」の点が課題として残っていたが、今年度、自治会加入が認められ、これにより地域との信頼関係や連携が密になり、地域から支援され地域に貢献できる体制が構築されたところである。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見や苦情等の対応は、重要事項説明書の説明とは別に、利用者や家族が日常的に相談、苦情を伝えやすい窓口を設置し、全員で共有し反映させていく取り組みも出来ている。また、同時に相談担当員が置かれていることの周知も図っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	⑥	自治会加入や定期に行われる運営推進会議で、地域の参加者から「利用者手作りの手提げカバンを地域の皆さんに紹介しては」というアイデア等をいただいた。また、地域の行事の際に手伝いをしたり、ホームの行事に地域の方に手伝ってもらうなど交流は活発化している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本位、一人ひとりの尊厳と自立を踏まえ、地域に密着した独自の理念を持ち、全職員に浸透させていく体制ができている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の支援や目標が、理念としてかかげられ、抽象的な言葉ではなく、解りやすく表現されている。朝礼や終礼で全員が唱和し共有しており、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会加入や地域の保育園、小学校に、利用者手作りの雑巾を贈るなどし、地域の人々との交流に積極的に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、利用者に最も多く接しケアの実態を知るスタッフを中心に作成されており、外部評価で課題となった項目については、全員で検討し改善していくよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況や個別ケア等について報告し、参加者の意見や要望を詳細に記録して、それを踏まえ話し合い全職員でサービスの向上に取り組んでいる。また、運営推進会議記録簿に会議の実施目的が明確に記載されていた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市より派遣される介護相談員の受け入れを通して、また、管理者や計画作成担当者が電話や市の担当課に出向き、制度や運営に関する相談等を積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態に変化が生じた時は、家族へ随時電話等で連絡を取り、その他の報告は来訪時にも行っている。また、毎月発行の「しらゆり便り」でも定期的に近況報告等を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や不満の対応については、重要事項説明書で窓口設置の説明をし、相談担当員も置かれている事を明確に伝え、相談苦情を積極的に受け入れる体制作りをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、法人の事業運営上避けられない事情であるが、最小限に抑える努力はうかがえる。また、やむを得ず異動する際は早めの周知を図るなど、ダメージを防ぐ配慮がなされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、非常勤も含め全職員をホーム内・外の研修に計画を立て参加させている。研修参加後は、会議等で報告し全職員が内容について共有できるよう、取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者間の定期的な会合は実施されているが、同業者間の交流とまでは言い難く、地域の同業者と交流する機会作りに積極的に取り組む姿勢がうかがえない。	○	認知症高齢者グループホーム連絡協議会等を通して、相互に交流・情報交換しながらモチベーションを高め、そこでの学び等をサービスの質の向上に生かされることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前のホーム訪問や、職員が自宅や病院等に出向くことを繰り返しながら、納得の上でサービス利用ができるよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物を漬ける際の全身の力を使って仕込む動作や、衣服のボタンのつけ方等を学んだり、その事を大事にしながら生活支援に役立てている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中で希望や意向の把握に努め、職員が利用者にかかわる中で、状態の変化に気づき、感じ取る感性を育てる取り組みもできている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント、24時間シートを含め職員全員で意見交換、モニタリング、カンファレンス等で話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、カンファレンス、モニタリング等でそのつど対応し、状況に合わせたプラン作りができている。また、状況に変化がなかった際には、最低3か月に1回程度は定期的に見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族のニーズに合わせて、通院介助やホーム仲間の自宅訪問では、一時帰宅の送迎サービス等の外出支援も行っている。医療連携体制は看護師を職員として配置し、適切な医療が受けられるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望には対応しているが、当法人の関連医療機関の利用が主であり、適切な医療が受けられるよう支援している。また入居前の掛かりつけ医との連携も密にし関係を築きながら対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は終末ケアの対象者の入所はないが、重度化や終末期について、事業所としての方針を定め、本人や家族、医師、職員等、全員で共有できる取り組みを検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書に利用者の権限として「プライバシーを保ち尊厳を維持するよう…」と明記されており、職員は一人ひとりの人格や誇りを損ねることがないように心がけ、個人情報の取り扱いについても理解し、プライバシー確保の徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースではなく、利用者それぞれが自然な流れの中で、ゆったりとした生活をしている様子がうかがえる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内で栽培される無農薬野菜を食材とし、利用者と職員と一緒に食事をするにより、料理内容が日常の話題となっている。職員は、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行い、食事が楽しくできるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を午後に実施し、利用者の希望によっては柔軟に対応している。また、入浴拒否等がある利用者には、原因を把握し不安や恐怖感を感じさせないように心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を生かし、裁縫で雑巾や手提げカバン等を作ったり、庭の手入れや野菜づくりも一緒に行って、張りのある日々を過ごせるよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人内の園庭ではあるが、ほぼ毎日戸外へ出て全身に日光を浴び空気に触れて五感を刺激することで、生き生きとした外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害は理解しているが、事業所の効率性や安全性が優先され、施錠されている部分が多々見受けられる。	○	鍵をかけられ、束縛されている心理的な抑圧感や不安は大きく、諦めや気力の消失を防ぐためにも、全職員で検討し鍵をかけないケアの実践を希望する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画を作成し、年2回の消防署立会いの下で総合訓練を行い、毎月の自主的な訓練を実施し、非常災害への認識を全職員が高めて行く取り組みができています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士指導の下、一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量のチェックが実施されており、利用者の状態に合わせた食事形態や好み、希望を取り入れたバランスの良い食生活の支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には四季折々の花が植えられ、居間や廊下は光沢が出るほど磨かれていて、清潔感あふれる共用の空間となっている。台所からも一望できる丘陵な築庭は、季節の花が楽しめるアングルとなっている。また、不快な臭いや音などはなく、居心地良く過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室によって落差はあるが、仏壇や使い慣れたものを生かし、本人が居心地よく安心して過ごせる部屋になっている。		

※  は、重点項目。